

世界に目を向けて学びを深める

～JICA 中部3名の講師による1年生国際理解講演会～

令和4年6月9日(木)

今年度も JICA 中部の方々にご協力いただき、1年生対象の国際理解講演会を行うことができた。JICA とは日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う機関であり、開発途上国への国際協力を行っている「独立行政法人 国際協力機構」のことである。

1 秋山槇様、遠山桂吾様

最初に JICA についての説明があった。JICA が行う国際協力には大きく分けて、資金協力と技術協力の二つがある。技術協力とは人を通じた協力のことであり、ただ技術を伝えるものではない。また、国際協力とは発展途上国に暮らす人々の暮らしがよりよくなるように多くの人々と協力することを指す。世界に目を向けることで私たちが多くの人々と支えあって生きていることがよくわかる。現状多くの課題を抱えている地球だが、よりよい未来を創っていくために、2030年までに解決すべき17の目標であるSDGs(持続可能な開発目標)が定められた。日本はまだまだSDGs下位であるため、これからどのように暮らしていくかを考えていかねばならない。

2 平山あゆみ様

JICA 海外協力隊とは日本政府による政府開発援助として、独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施しているもの。開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験をもつ方を、選考・訓練を経て派遣している。活動分野と職種は9分野190以上の職種に及び、幅広い活動をしていることがわかる。今回は JICA 海外協力隊として派遣されたモザンビークでの2年間の経験を話していただいた。平山様は現地の市役所に派遣され、ごみ問題に携わったという。上の写真以外にも、ごみがポイ捨てされている写真が多数あり、問題の深刻さをうかがわせた。モザンビークでは「ごみはごみ箱へ」の習慣がなく、即効性のある解決策はなかなか見つからなかったが、街中では大人に対して、学校では子どもたちに対して啓発活動を行うことで各家庭での意識の浸透を図ったそうだ。他にも生徒が興味を示していた内容がもう一つある。それは異国での生活についてだ。白魔術や黒魔術を職業にすることが認められているなど、日本では考えられないような話を興味深く話を聞いている様子うかがえた。世界の多様性にふれたことで、生徒自身の視野を広げるよいきっかけになったのではないだろうか。

